

異文化・姉妹都市交流に触れる

11/20
松の館

姉妹都市協会（葛西貢造会長）が国際交流フェアを開催。訪れた子どもたちや家族連れは、異文化に触れたり、姉妹都市交流への理解を深めたりしました。

3年ぶりの開催となったフェアでは、本市の国際交流員（CIR）と外国語指導助手（ALT）をはじめ、近隣のALTたちが、アメリカやイングランドなどの料理をテイクアウトで振る舞ったほか、日本ではあまり馴染みのないゲームなどを紹介しました。

姉妹都市の米国メイン州バス市から送られてきた貝殻を使って「貝殻アート」の制作体験も行われ、子どもたちは六角形の木製フレームに貝殻やビーズを接着剤で固定し、趣向を凝らした作品づくりを楽しみました。



左上：順番に袋を開けて欲しいものを取りあうアメリカ式プレゼント交換、右上：料理を振る舞うALTたち、左下：目隠ししてトナカイの鼻を狙って赤いボンポンをくっつけるピン・ザ・ノーズ・ゲーム、右下：貝殻アートに集中する子どもたち

往年のヒット曲などに沸く

11/27
牛瀧公民館



華やかなドレス姿で歌う第44回上原げんと杯チャンピオンの中村正子さん（七戸町）

牛瀧公民館（小山内竹一館長）が地域の活性化を図ろうと「歌の祭典唄っご家族（ファミリー）」を開催。上原げんと杯争奪のど自慢大会歴代チャンピオン4人をはじめ、県内外のカラオケ選手権の上位入賞者など、総勢21人が出演し、きらびやかな衣装とともに自慢ののどを披露しました。出演者たちは1人計2曲、「ラブ・イズ・オーバー」や「津軽海峡冬景色」、「月がとっても青いから」など、バラエティ豊かな往年の名曲を熱唱。集まった約170人の聴衆たちは、曲に合わせて手拍子をしたり体をゆらしたり、リズムに乗って楽しい時間を過ごしました。

友人同士で訪れた地元の女性4人は「コロナ禍で出歩く機会が少なく、何日も前から楽しみにしていた」「知っている歌が多くておもしろい。思わず歌に合わせて体が動いてしまった」と満喫した様子でした。

元気いっぱい 柏小児童がリンゴの販売体験

柏小学校（三上高弘校長）4年生38人が、リンゴとリンゴジュースの販売体験を行い、販売するための工夫や苦勞を学びました。

児童たちは、これまで総合的な学習の時間に、実すぐりや葉取り、つる回しなどの作業を行い、手塩にかけてリンゴを育ててきました。この日、収穫したサンふじ270個と1ℓ入りのリンゴジュース200本を準備し、「いらっしゃいませ」と元気よく声を掛けて販売。買い物客を呼び込むための工夫として、リンゴを使ったお菓子やサラダなどのレシピを載せたチラシを配布したり、よさこいソーランを披露したりもしました。

レジ打ちを担当した須郷爽暖さんは「レジの入力を取り消すのが難しかったけど、貴重な体験で楽しい」と話しました。五所川原市から訪れた女性は「孫から電話があったので買いに来た。買ったリンゴは友達におすそ分けしたい」と笑顔で話しました。

11/28
農産物直売所



協力して接客とレジ打ちをする児童たち

市防犯標語コンクール 会長賞・最優秀賞を決定

12/13
イオンモール
つがる柏



展示されている防犯標語のぼり旗

市防犯標語コンクール（市生活指導協議会・市防犯協会主催）の受賞者が決定しました。

市内各小学校から、犯罪をなくす強い意志を持ち、防犯の心を培うことを内容とした標語を募集し、その中から最高賞の市生活指導協議会会長賞と、最優秀賞6点を決定。会長賞には、穂波小学校6年佐々木唯衣さんの「防犯は 家族のきずなと 地域の目」が輝きました。受賞した7つの標語は、のぼり旗にしてイオンモールつがる柏2階HMV隣の壁面に1/21(土)まで展示されています。

最優秀賞受賞者は次のとおりです。秋田谷帆香（向陽小6年）増田妃なた（瑞穂小6年）野呂日彩（森田小4年）大西佑花（柏小6年）加藤鈴琳（稲垣小6年）宮島楓花（車力小6年）

中村乙さん 県卓越技能者に選出 さらなる高みへ

中村板金・中村乙さん（柏桑野木田）が、県卓越技能者表彰を受賞しました。中村さんは、就業以来一貫して建築板金業に従事し、技能の研さんを積み、優れた銅板加工技術を備えています。特に伝統的建造物の屋根ふき技能に優れ、数多くの神社仏閣等の文化財の修理を手掛けています。さらに、ものづくりマイスターおよび全技連マイスターとして、小学生に体験指導も行っています。この度、これらの実績が認められて県卓越技能者に選出されました。

中村さんは「最年少で受賞できてうれしい。次は現代の名工を目指したい。特殊な銅板加工技術が失われないよう、次の世代にしっかり受け継いでいきたい」とさらなる高みを見据えていました。

旧制木造中学校講堂の銅板屋根の修復も中村さんが手掛けたものですので、ぜひご覧ください。



賞状を手に喜ぶ中村さん

本市出身の2人がクラーク高校野球部で活躍



新岡君（右）と坂本君
写真提供：2人が中学生のときに所属していた「弘前白神リトルシニア」齋藤和裕監督

北海道深川市にあるクラーク記念国際高校野球部で、木造中出身の新岡歩輝君（2年生）と車力中出身の坂本劣陽君（2年生）が活躍しています。同校野球部は、2022年秋の北海道高校野球大会で見事優勝。秋の高校野球日本一を決める第53回明治神宮野球大会に2年連続で出場を果たしました。大会では、強豪校の大阪桐蔭高校と対戦し、残念ながら12対2で敗れました。それでも、同校は2023年春の甲子園出場が有力。本市出身の2人のさらなる活躍が期待されます。

キャプテンそしてエースで大会に臨んだ新岡君は「チーム全体が緊張のあまり、特徴である守り勝つ野球が出来なかったのがくやまれる」と振り返り、坂本君は「気迫を前面に出すプレーでチームを勝利に導き、春夏の甲子園出場を果たしたい」と意気込みます。

2人は家族の支えや応援に対し「最高のプレーで恩返ししたい」「成長した姿を見せたい」とコメントを寄せてくれました。